

『第18回レスキューロボットコンテスト』における 消防庁長官賞の授与について

総務課・消防研究センター

レスキューロボットコンテストの開催について

平成30年8月11日（土・祝）から12日（日）の日程で、神戸サンボーホール（兵庫県神戸市）において第18回レスキューロボットコンテスト競技会本選が開催されました（消防庁特別共催）。

消防庁では、第8回（平成20年）コンテストより消防庁長官賞を設け、その後も継続して先進的な科学技術の導入等により要救助者の負担軽減及び的確な情報収集による救助活動を実現したチームに対して表彰を行い、今後の消防防災活動を支えるレスキューロボットの研究開発・実用化の推進に寄与しています。



第18回レスキューロボットコンテストのポスター

レスキューロボットコンテストとは

日本におけるレスキューロボットの研究は、平成7年の阪神・淡路大震災から得られた教訓を踏まえ、様々な技術的課題に関する検討が行われてきたところです。

レスキューロボットコンテストは、参加者が製作したロボットを操作し、がれきに埋もれた人を救助するなどの課題に取り組むことで、レスキュー活動の重要性や難しさについて自ら考えるとともに、将来的にレスキューロボット等の消防防災活動で活用する資機材の開発に携わるような技術者を育成することや、災害に未然に備えること及びレスキュー活動の必要性について広く周知することを目的としています。

消防庁長官賞の受賞チーム

今回コンテストの消防庁長官賞については、「いつでもどこでもだれでもベストパフォーマンス」をコンセプトにレスキュー活動を行った「大工大エンジュニア」が受賞し、消防庁消防研究センターの長尾一郎所長から表彰状と盾が授与されました。



消防庁長官賞を受賞した「大工大エンジュニア」
（大阪工業大学モノラボロボットプロジェクト）
※右端 長尾一郎 消防研究センター所長

本ロボットの主な特徴は、がれき撤去機が、がれきを撤去する際、ロボットのハンド（手の平に相当する部分）に取り付けられたセンサを用いて、自動的にがれきの位置を検知できること、要救助者の位置を操作卓の地図上に明示することで、事前に救助経路と救助方法を決めることができることが挙げられます。

さらに、「大工大エンジュニア」は、要救助者の容態を素早くかつ的確に判定することが可能であり、迅速な救助と安心・安全な搬送につながったことが高く評価され、昨年に引き続き、消防庁長官賞を受賞することとなりました。

コンテスト当日の詳細については、レスキューロボットコンテスト公式ホームページ <https://www.rescue-robot-contest.org/18th-contest/> をご参照ください。

問い合わせ先

消防庁総務課（消防技術政策担当）田中、佐藤
TEL: 03-5253-7541